



2020.8.31 GUA, 華

「ヤマトネイチャーサークル」は、株式会社ヤマトが行なっている様々な自然環境への取り組みの総称です。

さらなる自然との共生を目指し、地域社会や自然環境への貢献を目的として「ヤマトネイチャーサークル」は幅広い情報を発信していきます。

葉画家 群馬直美の ヤマトビオトープ園の葉っぱたち vol.63 絵と文 群馬直美

夏の扉《ユズリハ》

6月の終わり。

ヤマトビオトープ園のユズリハの木に、ステキに虫に食われた葉が1枚。
この世でただ1枚の葉っぱが、虫に食われて、さらにオンリーワンになっている。
今回はこの葉っぱに命を捧げよう、と立川のアトリエに持ち帰る。
表から見ると深い緑色で、高級車のボディの様にピッカピカ。
真ん中を走る主脈が一際明るくて希望の光みたいだ。
裏返すと薄緑色で、うっすらと白い粉を被って、私が触れたところがまだらに色が濃くなっている。
左右に分かれた葉脈が、伸びやかな形を描き出し、いつまで見てもあきない。
しばらく葉っぱを鑑賞した後、キッチンペーパーで包み、
重たい本を何冊も載せて
『希望に満ちたユズリハ』を押し葉にした。
ひと月半後——
押し葉の包みを開けてみると、がらりと様変わりした葉っぱが、目の前に立ち現れた。
ひと言でいうと『錆び付いた真夏の扉』。
鉄の扉となったユズリハが、
「さあ、私を押し開け、新しい世界へ踏み出すのです」
と立ちはだかつてくるではないか。
「そうだ。恐れずに新しい扉を開けるのだー。ははあー」と私はひれ伏し、
「ユズリハ様、今回は背景を黒くさせていただきます！」と黒い絵の具で塗りたくり、
ユズリハ様の後光をシルバーとゴールドのスタンプパッドを叩き付けて色をのせ、
スポンジでぐりぐり、「ええい、面倒だ！」とスポンジを放り投げ、指の腹を使ってぐりぐりと画面に馴染ませる。
次々と新しい扉を開けて行った先に私がたどり着いたのは——
結局、いつも通りの背景が白のユズリハ様の絵だった。
やっぱり、葉っぱの背景は白じゃないとねー。
葉っぱそのものの持つ美しさが際立ってこないんだよねー。
真夏の冒険に興奮した一品。

表紙の絵 「茶色くなったユズリハの虫食い葉(裏側)」

錆び付いた真夏の扉。あっ、私の指紋も付いている！

ヤマトビオトープ園にて 2022.6.27 採集

紙(ファブリアーノ エキストラホワイト 640g 極細目)/テンペラ・油絵の具・スタンプパッド
size:380mm×280mm 8.31完成 © Naomi Gumma